競技・ハンディキャップ委員会議事録

競技・ハンディキャップ委員長　　岡田　孝之

日　時：令和6年5月5日　14：15～15：30

①　2024年度スクラッチ選手権報告

●日程・・・【予選】　4月14日（日）　予選参加者36名
【決勝】　4月21日（日）　予選通過者16名
（カットライン89ストローク）

●結果・・・【優勝】遠藤　優太　様　153ストローク　（2019年より5連覇中）
【2位】西山　英樹　様　162ストローク
【3位】木村　圭吾　様　164ストローク

②　レディース杯開催について

→前回継続審議となっていたレディース杯開催について

■⇒6月3日（月）開催の日本ゴルフ協会推奨のレディースオープンコンペの参加人数によってクラブ側で検討をする。

③　プリファード・ライの必要性について

→吉田副委員長より競技参加者の成長をマネジメントしていくにあたってプリファード・ライの適用の必要性ついて意見を受けた。

【◎決定事項】

➔これまで通り当日のコースコンディションを見てプリファード・ライの適用をするかを当日担当の競技委員が判断する。
プリファード・ライを適用していない日でも個人の判断でボールを拭いてしまうプレーヤーがいるため、プリファード・ライを適用しない日はスタート前のルール説明の際にボールを拭かないようにするなど、ノータッチ・あるがままのプレーについて説明をする。
事務局は競技当日の朝にコースコンディションを確認する際にどの程度ボールに泥が付くか写真を撮り記録をする。

④　データベースでの情報共有について

→宇野委員より情報共有のため過去の競技委員会議事録をデータベースで管理することはできないかという意見を受けた。
また競技・ハンディキャップ委員会の出欠確認をコスト削減のため、
現行のはがきからアプリでの確認にしてみてはどうかという意見を受けた。

【◎決定事項】

➔過去の競技委員会議事録に関しては今まで通り HP にて掲載をし、データベースで管理をする。
はがきでの出欠確認に関しては委員の方の住所へ送付するという確実性の重視と、現状クラブ側にとって経費と作業面に関して大きな負担とはなっていないため
現状通り行っていく。

⑤　カート道での救済処置について

→髙梨委員より東コース 3 番ホールや 7 番ホールのカート道の間に芝のある箇所から救済を受けずにそのまま打つことは可能かという意見を受けた。

■⇒そのまま打つことも救済を受けることも可能。
カート道の下に誘導線が敷かれてはいるが深い位置にあるので問題はない。

※次回の競技・ハンディキャップ委員会は、2024 年 8 月 4 日（日）開催予定。

以上

※別紙①

プリファード ライ

プリファード ライとは

ゴルフの公式競技中などであっても、非常に悪天候なコース状況となった場合に、無打罰でコース上のボールを拾い上げて汚れを取り、状況の良い場所にプレースしてプレーを再開するというローカルルールを設ける場合があり、これをプリファード ライと言います。基本的にはプリファード ライの明確な基準はなく、競技主催責任者と委員会で取り決められる事項ですので、実施されるかどうかはその場の状況次第となります。プレースは基本的には 6 インチ以内となっていますが、そのルールについても状況判断がなされる場合があります。

プリファード ライの注意事項とは

ゴルフの公式トーナメントなどで、プレー中にプリファード ライが採用された場合、当然競技運営者の指示の範囲でプレースを行うことはできますが、その場合であっても当然マークはしなければなりません。また、プリファード ライが適用されるのは、通常はフェアウェイの上にボールがある時だけという規定になっているので、注意が必要です。

プリファード ライのルール上の区分とは

ゴルフルールには正式に公的ルールとして存在しているものと、そうではないものがありますが、プリファード ライは正式ルールの 34 項目の中には存在しないローカルルールです。従ってプレーヤーとしては公的なルールと勘違いしないようにしなければなりません。当然ローカルルールなので、明確なプリファード ライの採択条件はなく、あくまで大会運営者側の判断によってしか、適用されないルールだということを理解しておく必要があります。